

「毛髪再生医療実証」グループ

終了評価報告書

日時: 令和8年5月19日(火) 10:00 ~ 12:00

場所: かながわサイエンスパーク西棟 704 会議室、オンライン

委員: 梅田 和宏 SIIF インパクトキャピタル株式会社 代表パートナー

大政 健史 大阪大学大学院工学研究科 工学研究科長・教授

酒井 康行 東京大学大学院工学系研究科 教授

築瀬 香織 クラシエ株式会社ビューティケア研究所

報告者: 「毛髪再生医療実証」グループ グループリーダー 福田 淳二

上記の日時・場所において、「毛髪再生医療実証」グループの事後評価委員会を開催し、事前に提出された当該事業の令和6年度と7年度の研究報告書ならびに、当日のプロジェクトリーダーによる成果報告及び自己評価説明、事務局による特許および決算状況等報告を受け、質疑応答並びに、委員間での評価に関する審議を行い、その結果を以下のようにとりまとめた。

【総評】

プロジェクトとして、前の「再生毛髪の大量調製革新技术開発」プロジェクトの成果をしっかりと引き継いで成果をだし、順調に進められた。研究課題評価委員会としては、事後評価として本研究課題成果は高く評価でき、益々発展が見込まれる。詳細については、以下の【研究成果の視点】からのコメントならびに【研究室運営の視点】に記載する。

【研究成果の視点】

研究戦略として、大きく、「毛乳頭細胞による毛包再活性化」、「毛包原基による毛包形成」、「毛包オルガノイドを用いた植毛」の3つの観点から基盤技術確立に取り組んでおり、研究目標に記

載の事項について各々特筆すべき成果が、概ね達成された。「毛乳頭細胞による毛包再活性化」については、設立したスタートアップベンチャーが、いっそう引っ張る形で、スピード感をもって今後取り組んで頂けることが期待できる。また「毛包オルガノイドを用いた植毛」の課題については、実用化を一層加速することが期待される。

研究成果の公表については、出すタイミングも含めて、着実に、かつ活発になされている。とくにアウトリーチ活動については特筆すべきものがある。さらに、研究成果の権利化についても、申し分ない。企業との共同研究についても、順調に実施されている。

【研究室運営の視点】

研究の方向性は妥当であり、研究計画に対して概ね順調に進捗しており、申し分ない。共同研究、競争的資金についても、様々な方面からバランスよく十分な資金導入の実績があがっており、これらを含めた経費の配分、人員体制も大変適切であった。今後は、様々な分野からの競争的資金の獲得についても、設立したスタートアップベンチャーが中心になりながら、さらに活発に行っていくことが期待される。また、社会実装は人材配置を厚くして実用化を加速することが期待される。

令和 8 年 5 月 20 日

委員長 大政 健史

